第58回医療薬学公開シンポジウム開催報告書

第58回医療薬学公開シンポジウム
実行委員長　武田　泰生

平成２７年９月１９日（土）に鹿児島大学稲盛会館にて、第58回公開シンポジウムを開催した。本シンポジウムではテーマを、「みんなで支える地域包括ケア　～チーム医療および地域連携における薬剤師の役割～」と題して、特別講演１演題と４つの施設よりチーム医療および地域連携に関する取り組みを紹介するシンポジウムを実施した。参加者は、９２名と多数のご参加をいただき、職種の内訳としては、病院薬剤師８６名、薬局薬剤師４名、大学教員１名、医薬品卸売会社１名であった。

シンポジウムでは、まず、長崎大学病院薬剤部の安藝敬生先生より「地域完結型医療の中での救命医療・集中治療専任薬剤師の役割～その時からその後を考える～」と題して、患者のQOL改善のために、ベットサイドからどのように問題を抽出し、処方提案するかについて気管挿管中の患者を例にご講演頂いた。また、九州医療センター薬剤部の大石裕樹先生からは「HIV領域における地域連携の問題点と薬剤師の役割」との題で、チーム医療として、十分な効果が得られない患者や副作用や相互作用が疑われる患者に対して薬剤師主導で血中濃度測定を行っている事例の紹介や薬薬連携として、薬局のデッドストックへの対応として、包装単位での処方をお願いするなどの連携を取っていることについて紹介していただいた。鹿児島大学医学部・歯学部附属病院薬剤部の茂見茜里先生からは、「院内感染対策における薬剤師の役割と地域連携への取り組み」との題で、ICT担当薬剤師として、抗菌薬や消毒薬の適正使用への関与および地域連携のため今年から導入された鹿児島県感染制御サーベランスについて紹介していただいた。薬局セントラルファーマシー長嶺の天方奉子先生からは「在宅緩和ケアにおける薬剤師の役割～チーム医療を目指して～」の題で、病院から在宅に移行するために、薬剤師として退院時共同指導などで情報を収集し、モルヒネ持続などで関わっている症例をご提示頂いた。　特別講演では、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　先進治療科学専攻　臨床腫瘍学講座　上野真一教授より「地域包括ケア時代におけるがん医療～薬剤師の皆様に期待すること～」と題してご講演頂いた。講演の中で、院内と地域でのがん医療を支えるためには、多職種協働が重要であり、情報の共有、業務の標準化、コミュニケーション能力向上のために、意見を言いやすい環境および根拠をもって従うといった、リーダーシップとフォロワーシップの重要性について紹介していただいた。シンポジウム全体を通して、活発な質疑応答が行われ、本シンポジウムは、地域連携における各領域の薬剤師の役割について考えるよい機会と成り得た。

最後に、今回のシンポジウム開催にあたり、ご共催・ご後援いただいた鹿児島県病院薬剤師会、鹿児島県薬剤師会、九州山口薬学会、日本薬学会九州支部、さらに企画・運営にご尽力いただいた日本医療薬学会事務局の方々に厚く御礼申し上げます。